

會 報

第581号

平成29年2月1日発行

一般社団法人
監 査 懇 話 会

編集発行人 菅野 重雄

<http://kansakonwakai.com/index.html>

第292回監査セミナー

平成28年12月9日

講 師：九州大学名誉教授 弁護士 西山 芳喜氏

演 題：監査役の役割とは何かー日本型企业システムの要としてー

1. はじめにー私が本日申し上げたいこと

- ・この国は古くからの日本型企业システムによって支えられていること。
- ・国の発展のためにも日本型企业システムを維持・発展すべきこと。
- ・監査役制度は、その日本型企业システムの『要』としての位置にあること。
- ・監査役制度の周知のため、その有用性を監査役の皆様が自ら実証していただきたいこと。
- *各国で企業の有り様についての考え方が違うのは当然のこと。米国型に無自覚に追随するのではなく、日本の独自性をきちんと理解して何がこの国にとって最適なのか考える必要がある。

2. 監査役の仕組みー監査役とは何か

- (1) なぜ、日本独自の制度として、監査役制度が創設されたのか

日本の商法は、明治期ドイツ人のロエスレルにドイツ商法を参考にした草案の作成を依頼したが、わが国の企業経営の慣行に合わず日本独自のものに修正して明治32年に成立した。大規模な企業を想定した株式会社については、監査役と取締役による経営の仕組みが規定された。役方・番方の武家、お礼奉公の商家の伝統を受けつぎ、財閥系大企業では、すぐに、取締役と監査役が6対4程度の比率となり、財閥本家名代・前取締役・幹部社員等が監査役に就任するようになった。監査役は、会社の業務を執行する取締役の指導的立場になり、経営者としての自覚をもって取締役と関係していた。

両者はともに内部者であり、いわば右手と左手の関係を果たした。監査役は、執行の権限は有せずとも、重役会での審議を通じて、実質的に「会社の業務執行を監督」し、併せて「決算の検査」を担当した。なお、当時、監査という用語は全く使用されていなかった。

戦後、GHQは、財閥解体の目的が果たした後、証券取引所の再開を認める条件として、証券取引法上の公認会計士監査の導入を求め



るとともに、商法改正に当たって、アメリカにない監査役の廃止などを求めてきたが、日本側は公認会計士制度を新設し、また、監査役には会計監査だけを担当させるという昭和25年商法改正をした。このとき、取締役会制度の採用により、代表取締役以外の取締役は、取締役会の議決に参加する以外は代表・調査の権限が無くなり、代表取締役を最上位とし、他の取締役がその部下となる業務執行組織になった。

昭和49年商法改正で「監査役は取締役の職務の執行を監査する」旨の規定により、監査役制度が復活したが、監査の語の意義が明瞭にされなかったために、監査役の任務そのものが曖昧なものとなったため、鈴木竹雄・大隅健一郎両

博士を中心に、監査役を指導するため日本監査役協会が創設された。

- (2) なぜ、監査役には広範な調査権と是正権があるのかー監査役の立ち位置の解明

- ①代表取締役との関係ー独任制（独任制とは、一人で意思決定ができること）

いずれも固有の調査権と是正権を有している。監査役が代表取締役を是正すべき「是正者」。監査役と代表取締役とは同格であるが、「対（つひ）」の関係にあり、右手と左手の関係のような関係が求められる。

- ②取締役会との関係

監査役に開催通知を出さなければ、取締役会は開催できない。個々の取締役には固有の調査権や是正権がなく、また、しばしば取締役会の監督機能が十全でないため、取締役会の代わりに監査役が調査と是正を行うべきことが要請される。また同時に、監査役が取締役会で取締役に発言させ活性化に努力すべき。監査役が「最上位の是正者」として取締役に経営者としての自覚を促す（指導的役割）。

- * 監査役の監査の本質は、「是正」。是正には、「話す」「相談する」「手伝う」「差し止める」「訴訟提起する」などの広い範囲の行動がある。監査役の基本の仕事は、人と話をするところである（対話による調査）。従業員や取締役と話をするために会社の中を歩き回って会社の状況を肌で感じて欲しい。

- * 監査報告の書き方として、適法性監査報告（適法だったと記述

する)、妥当性監査報告(妥当だったと記述する)という言葉はあり、適法性監査報告が一般的となっている。他方、「適法性監査」という言葉は造語であり、本来、監査役の職務の内容を適切に表現した言葉ではない。

③会計監査人との関係

監査役の役割は、会計監査の協力者としての立場であり、非会計情報の提供を行い、会計監査の最終的責任者としての立場がある。監査役だけが会計監査人に報告を求めることができる。月次監査の報告会などで会計監査人に「何か問題ありませんか」と質問して欲しい。

④社外取締役との関係

立ち位置の違いで、会社の機関(手足)か、株主(市場)の代弁者か、調査権・是正権との関係では、役割(権限)の違いがある。社外取締役は、社外の視点をもって意見を言うという長所があるが、短所として、取締役会に出席するだけで業務執行の現場を見ない、見ないので見られないこと、役職員と対話しないのではなく対話できないこと(現場を歩き対話をするすると指示を伴うことになり、それは業務執行に相当する)、任期が短いと地位に拘泥するおそれがあること、などがある。社外取締役の職務執行もまた監査役の監査(是正)の対象である。しかし、代表取締役等との拮抗に際しては、相互の協力・連携が必要不可欠である。

3. 監査役の役割－監査役の監査とは何か(詳細省略)

監査役には、調査権、調査権、是正権、報告権、報告を受ける権限等広範な権限があるが、大局的な見地から会社の利益を慮って行使すべきところに特色がある。問題は、どのような大局観を持つべきかであり、後述のように、株主利益を最優先するような大局観ではない。

公認会計士監査と監査役監査との間には、監査理論上の整合性はない。「監査」の語は、本来、「照合」を意味する。

4. 監査役の立ち位置－企業システムとの関係

(1) 私見－代替的経営機関説

①代替的経営機関説の立場

監査役の本質は、監査機関ではなく、「代替的経営機関」である。監査役には、経営者としての視点、会社代表者としての視点が欠かせない、という意味においてである。

Corporate Auditorではなく、Supervisory Directorである。

②「代替的経営機関」としての職務は何か

監査役の本務は、経営の是正である。監査役には、経営者としての資質・能力・知見等が必要不可欠。経営者としての視点で行動し発言すべき。ただし、やりすぎてはいけない。取締役がすべきことをしてはいけない。取締役と対話して指導し、あるいは説得することが肝要である。

(2) なぜ、いま、企業システムを再確認する必要があるのか

アメリカ型企業システムの採用への圧力の上昇、会社本位主義と市場本位主義との拮抗の問題があるからである。これは、監査役の大局観のあるべき内容に影響する問題である。

(3) アメリカ型企業システムの特徴－株主利益の最大化を図るための仕組み

アメリカ型コーポレート・ガバナンスでは、会社が銀行の借入金ではなく株式・社債等を発行して資金調達するのが一般的なため、株主・投資家に向けて「株主利益の最大化を図る」経営を行い、独立・社外取締役という業務執行者でない外部者が取締役会の過半数を占め、経営を監視し業績を評価する。「他律型」な仕組みが基本になっている。彼らは経営の基本方針の決定のみ行い、具体的な業務執行に関する意思決定には参加せず、責任を負わない。

(4) 日本型企业システム－人材育成と企業の持続的成長を図るための仕組み

日本型コーポレート・ガバナンスでは、会社は、株主・投資者をはじめ、従業員、取引先、銀行、消費者、地域社会、国家等の利害関係者(stakeholders)の利益を含む「会社それ自体」のために経営される。会社は、持続的な成長や中長期的な企業価値の向上を目指

すべきである。中長期的な企業価値の向上の要請と日本の経営の理念・慣行は矛盾しない。コーポレート・ガバナンスの要にある仕組みは、企業存立の原点を認識する者(又は委員会)が業務執行者の自律性・自発性を発揮させるため、経営を監視し是正するためのものである。日本型コーポレートガバナンス・コードは、企業社会への必要かつ十分な説明が求められる時代の要請であり、取締役の職務執行を監査する監査役・監査委員会・監査等委員会という経営監査制度の有用性を証明する機会と考えることができる。

5. 監査役の使命－日本型企业システムの要を担う

(1) 会社本位主義

取締役・従業員を育む経営理念、企業は人なり。「人」を守ること／取締役・従業員の健康・安全、「人」を育てること／取締役・従業員の教育・研修、「人」を活かすこと／取締役・従業員の自主性・やる気、「人」として尊重すること／取締役・従業員への感謝。

(2) 経営者としての自覚

企業の信用と存続を図るため、大局的判断をする。業務の円滑な運営のため、人材育成を図り、また併せて、取引先との共存共栄を企図しつつ、会社の健全な成長を図ることこそが最大の会社利益となる。

(3) 最上位の是正者としての自覚

監査役は、代表取締役と同等以上の調査権があり、裁量的な権限の行使(経営判断)ができる。同時に、監査役は、社長が信頼する唯一の存在であり、社長を支え連帯して経営責任を負うべきである。代表取締役・取締役会の活性化を図ることも使命である。調査活動では、対話による調査－筋道を踏んで見るべきものは見る(取締役・従業員の上司ではない)。是正活動は、説得による是正－情理を尽くして言うべきことは言う(人事権・指揮命令権はない)。最も重要な職務は、社長に「ものを言うこと」、「説得をすること」である。監査役の活動が活発になれば、企業がまっとうになる。

(文責 堀田 和郎)

講師：作家 富澤 秀機氏
演題：日米を結んだ第2のシルクロード

「松陰の妹を妻にした男の明治維新」（徳間書店）を昨年出版した。長州藩の武士だった小田村伊之助、後に名を楫取素彦と変えた男の物語だ。楫取の名は先祖が瀬戸内海海賊船の舵取りであったことに由来する。今日はこれにも触れながら明治初めの日本近代化について話をしたい。

1. 明治2年に二組の外国人がやってきた

明治維新がなって天皇が初めて東京に來られたとき、最初は移り住むという形ではなくて行幸という形であった。天皇は独身だったのでまた直ぐに京都に戻り、翌明治2年、美子と結婚して再度上京した。全国各地には大名がまだ群雄割拠しており、廃藩置県という大変な荒療治が行われたのは明治4年になってからである。私の住んでいる群馬県は当時、前橋藩、高崎藩、安中藩など8つほどの藩が残っていたが、この年の6月、二組の外国使節団が相次いでやって來た。当時外国人は横浜にあった在外公館に押し込められており、横浜から10里（40キロメートル）以上出てはいけなかったになっていた。攘夷思想が残っていて暗殺される恐れもあったからである。そんな中で明治天皇の特別許可を得た異人さんが100キロも離れた前橋にやってきたのだから人々はびっくり仰天だった。

新橋・横浜間に日本で最初の鉄道が出來たのが明治5年。旅をするには徒歩か、駕籠でいくか、馬に乗るかしか手段がなかった当時、一行は馬に乗ってやってきた。その様子を描いた錦絵が残っている。前橋藩は80人の武士を警護に充てた。絵にある髭を生やした人物が団長のデラトゥール伯爵（公使）。横乗りスタイルで馬に乗っているのが同夫人。随行員も入れて7名。横浜を出てから4日目で前橋に到着した。

20日ほど遅れて今度はイギリス人一行もやってきた。イギリス公使館のフランシス・アダムス書記官が率いる5人が前橋に入った。随行員たちは蚕糸商、すなわち蚕のタネを扱う商人たちである。この中には後に政府から富岡製糸場の建設を任されたブリュナも含まれていた。一行は信州・長野県にも足を延ばしており、視察の目的は日本の養蚕地帯を自分たちの目で確かめることだった。

養蚕は5000年前から中国で始まり、日本には奈良時代に百済を経由して伝わり全国に広がった。シルク



ロードという言葉は、19世紀にリヒトホーヘンというドイツの学者が「中国」という本の中で東西交流における絹の重要性を指摘し、絹が中国から中央アジアを経てヨーロッパにもたらされたルートを紹介した。2014年には世界遺産に登録されたが、これとは別にもう一つのシルクロードがあることをご紹介したい。群馬・長野県などの生糸産地から横浜港を経て、船で大量の生糸をアメリカに輸出したルートがそれだ。

2. 山手線は何故できたか

第2のシルクロードの成り立ちを話す前に、東京の山手線がどうしてできたのか触れたい。現在、山手線は環状になっていて下町も走っているが、なぜ山手線というのだろうか。

明治5年に日本最初の鉄道が新

橋・横浜間に出來たが、機関車も線路もすべて英国からの輸入品。続いて関西で京都から神戸までの鉄道が出來た。3番目に完成したのは上野から前橋までの高崎線で、生糸を横浜まで運ぶために優先された。一方、列島を縦断する幹線計画があり、東海道沿い、中山道沿いのどちらにすべきか論争の末、いったんは中山道ルートとなった。第1の理由は太平洋側だけでなく日本海側の開発もできること、第2は山縣有朋が強く主張した軍事上の理由。陸軍の外国艦船からの艦砲射撃による被害を憂慮してであった。しかし、工事を始めてみると、機関車が松井田から軽井沢へ至る碓井峠（標高1000メートル）を上れないことが分かり、東海道沿いにルートが変更された。

さて生糸輸送のために優先して造った高崎線だが、上野から先が新橋につながっておらず、物流の役割を果たしていなかった。当時、上野から新橋にかけての一带はいわゆる下町で、多くの住民にしてみれば黒煙をモクモクと出す変なものが來ては困るというわけだ。現在の東京駅は江戸時代、北町奉行所があり、有楽町駅は南町奉行所があった所。困った政府は下町を迂回して山の手を通そうということになり、赤羽から山の手の新宿を経由して品川へ結ぶことで、ようやく前橋から横浜までが一本の線路で繋がった。これで生糸は1日で横浜まで輸送され、船でアメリカに輸出されるようになった。上野と新橋が結ばれて、山の手線が現在のような環状線の形になるのはしばらく後の大正14年である。

3. 生糸の生産・輸出

生糸は明治政府にとって最も重要な戦略物資であった。幕末から明治にかけての時代、フランスとイタリアは世界有数の生糸生産国だった。ところが、微粒子病という蚕の伝染病が蔓延して生産量が六分の一から

十分の一に激減。困った両国は中国に期待をしたが、当時の中国は太平天国の乱などでそれどころではない。その結果、隣の日本に需要が集中、日本にとっては極めてラッキーな状況が生まれた。日本は毎年、生糸の増産を重ね、初めの頃は横浜から船で英国に輸出され、90%以上がロンドンの市場に持ち込まれた。明治2年、スエズ運河が開通すると、地中海からフランスのマルセイユに船が入り、リヨンが売り買いの中心となっていく。明治10年くらいまでは、日本産生糸はほとんどリヨンでさばかれた。その後、アメリカで南北戦争が終了し、景気が良くなって婦人用ドレスや靴下に絹を使うなど大幅に需要が増えてきた。当時アメリカの人口は日本と同じ3500万人くらいであったが、日本の生糸への需要が大きく明治18年にはリヨン向けを追い越して、58%が対米輸出となった。おかげで明治42年には日本は世界最大の生糸生産国になり同時に最大の生糸輸出国となった。日本からの輸出品は、江戸時代末期には銅や狭山茶などもあったが、明治に入るとひたすら生糸を輸出して外貨を稼ぐ輸出構造が出来上がった。

富岡製糸工場がスタートしたのも明治5年だが、その所長をやった尾高惇忠（渋沢栄一の義兄）は「工女は兵隊に勝る」という言葉を残した。時の総理松方正義も「軍艦はすべて生糸をもって購入するものである」と言ってはばからなかったほどに生糸は重要な輸出品であり、日本近代化のための貴重な外貨獲得手段であった。生糸で軍艦を購入し、日清・日露戦争にも勝利することができたのである。今は輸出の元締めは経産省だが、戦前は日本の農林省の中に蚕糸局があって、花形の局として輸出重点主義を進め、ほぼ70年余にわたって養蚕を発展させた。太平洋戦争の後も、生糸は日本の輸出品第一位として外貨を稼ぎ、不足する食糧の輸入に大きな貢献をした。

4. アメリカ向け輸出に貢献した新井領一郎の活躍

ここで群馬県桐生市出身の新井領一郎について触れたい。アメリカで

南北戦争が戦われたのは1861年から65年である。戦争が終わるとアメリカは世界最大の絹製品輸出国になった。明治9年（1876）に日本から20代の若者5人がアメリカに渡った。「オセアニア号の6人」と言われるが、順天堂大学を創った佐藤泰然の孫の百太郎を団長に、日本陶器、日本ガイシ、特殊陶業、TOTOなどを有する森村財閥の森村豊もいた。ニューヨークで生糸商リチャードソン氏の信用を得た新井は、のちに米国向け生糸輸出の大半を扱うようになり大成功を収めた。明治9年から10年後の18年には輸出の半分以上が米国向けになり、新井領一郎は生涯で90回も日本とアメリカを行ったり来たりして常にアメリカの情報をもたらした。成功した新井は米国絹業協会の役員を務め、当時在米で成功したジヤスターゼ発見者、高峰譲吉や森村グループ大番頭の村井保固らとともに日本協会を設立し米国における日本の地位向上に貢献した。明治42年に日本は世界最大の生糸輸出国になった。アメリカにとっても二番目に大きな輸入品が生糸であり、その95%が日本からの輸入であった。

新井の長女・美代が松方正義総理の息子・正熊と結婚し生まれたのが松方ハル。ハルは戦時中は両親とともに桐生に疎開していたが、戦後、東京の外国特派員協会を根城に雑誌記者をやっているときに、先妻を亡くしたばかりのライシャワーと知り合い結婚した。夫婦は米国に戻ったが、ケネディ大統領の演説に感激してそのブレンとなり、昭和36年に日本大使となったライシャワーと一緒に大使夫人として日本に赴任することになった。ハルは帰国後「絹と武士」を執筆、生糸の対米輸出に成功を収めた新井と薩摩藩出身の武士だった松方の両祖父について詳細な記述を残した。

5. 長州人・楢取が群馬へ

さて楢取素彦だが、吉田松陰とは盟友の関係で、1歳年上である。藩校・明倫館の先生となった楢取と比べ、松陰の評価は様々。わずか3年の間に100人近くの著名な弟子を育

てたが、ある意味ではテロリスト。老中暗殺を企てたり相当過激な思想の持ち主であったと思う。当時、日本の人口は3000万人。そのうち40万人の武士集団がいたが、日本は外国が黒船で押し寄せてきたらすぐに植民地化されてしまいかねない東洋の弱小国であった。松陰らはとりわけ孔子孟子を生み千年の長きにわたってわが国の理想であった中国がアヘン戦争でイギリスに敗れ、人々が奴隷のようにこき使われていることに大変なショックを受け、また釈迦を生んだインドは中国を蹂躪している野蛮な国の植民地になっていることに強烈な危機感を抱き、「このままでは日本は滅びるかも知れない」と考えた。そして尊王攘夷思想のもとに独立国家を維持せねばならぬと考えた。

松陰は井伊大老の命により30歳で処刑されるまでの3年の間に、92人の弟子を養成した。久坂玄瑞、高杉晋作、前原一誠、伊藤博文、山縣有朋らであり、明治政府中枢のほとんどは松陰の弟子で占められていた。彼らは自ら松陰の弟子であることを声高に語り、その思想を喧伝した。もとはほとんどが足軽であり、伊藤博文に至っては農民出身であったが、長州では松下村塾に学んだというだけで士分に取り立てられた。なかでも松下村塾の出であることを一番利用したのが明治の太閤さんと言われる伊藤博文ではないかと思う。

一方、楢取は85歳まで長生きした。明治になってから初代の群馬県令となり、二つのことをやった。一つは松陰と同じく教育者である立場から、教育に最も力を入れた。二つ目は生糸増産に力を尽くし殖産興業を推進したこと。明治5年に富岡製糸場が官営のモデル工場として操業開始したものの赤字続きで政府は民間に払い下げを画策したのに対し、楢取は他の製糸工場の模範として富国強兵に資すべしとして廃止に反対した。教育によって雑草の中から英傑が生まれるという「草莽崛起」の思想、教育には志と気力と知識が重要であり、最たるものは志だと主張して教育に力を入れた。学制改革は明治5年だが、群馬県の就学率は

64%と高く、全国平均の50%をはるかに上回った。この草莽崛起の考え方の中から生まれてきた人物の一人が、第42代総理の鈴木貫太郎である。

6. 終戦で日本を救った鈴木貫太郎

関宿藩の武士だった父が廃藩置県で失職後に、教育レベルが高そうという事で再就職の口として選んだのが群馬県の県庁職員だった。息子二人のうち長男貫太郎は海軍兵学校へ進み最後は海軍大将、次男孝雄は陸軍大将となり戦後は靖国神社の官司。「正直に腹を立てずに撓（たゆ）まず励め」は父から貫太郎に送られた戒めの言葉であり、官軍出身でなく出世が厳しい貫太郎の終生の心構えであった。日露戦争で活躍し、中將になった時に艦隊を率いてサンフランシスコに寄港した際、「日米両国は何があっても絶対に戦ってはならない」という趣旨の有名なスピーチを残した。鈴木は「日本が仮に艦隊決戦で勝利しても、ロッキー山脈に辿りつけるかどうか。占領など出来ない」と述べ、日米戦は馬鹿げたことと言い切った。これを通訳した海軍きっての秀才、佐藤市郎は長州の佐藤三兄弟の長男であり次男は岸信介、三男は佐藤栄作。

昭和20年3月に東京は焼け野原となり、貫太郎は4月5日、79歳という高齢でいやいや総理に引っ張り出された。戦争遂行の表看板を掲げながら終戦を模索する困難な仕事であった。4月2日にルーズベルトが急死した時に弔電を送るなど幸い米国の心証はよかった。瀬戸際でポツダム宣言を受諾し早期終戦をもたらしたことに、天皇は2度、貫太郎に謝意を表した。天皇の信頼厚い鈴木でなかったら終戦はもっと遅れたであろうし、もしそうだったら北方4島だけでなくさらに北海道までソ連に占領されて、わが国は南北に分断されていたのではないだろうか。

太平洋戦争での日本の戦没者は兵230万と民間80万の310万人、米国はたったの10万人。日米戦争は完全なワンサイドゲームであり、近々安倍総理が真珠湾を訪問するが、何故これほど割に合わない馬鹿な戦争を引

き起こしたか明らかにせねばならないと思う。貫太郎は戦後郷里の関宿に戻り、82歳で没した。日米関係における貫太郎や領一郎の活躍を考えると、志を貫くという松下村塾の教育に思いを致す。目前の動きに流される盆上の小豆であってはならないとの思いを一層強くする。

7. 戦後日本について

昭和の終わりに政治記者となった私は、与党自民党の担当として三角大福の派閥全盛時代取材した。47年（1972）に日中両国が国交を回復する際に、中国の周恩来が「水を飲むときには井戸を掘った者を思い出さねばならない」との名言を吐いた。今は「戦後70年、明治維新後150年」の大きな節目にあるが、日本の歴史上これほど経済が繁栄して豊かな時代はない。平和が続き、安全で経済的にも豊かであり、世界でもまれにみる健康と長寿に恵まれている。自民党が昭和36年に採用した国民皆保険制度によるところも大きいし、だからこそその故をもって国民から自民党も高く評価されているのだと思う。わが国では誰でもが医療を受けられるが、アメリカでは保険に入っていないと医療を受けられないときがある。

日本で一番心配なのは1000兆円の借金財政である。タイタニック号に乗って日光浴をしているようなものだ表現した人もいる。また、どうして何もかも東京一極集中なのか、私は東京オリンピックに反対だったが、決まった後に森元総理には、できるだけ競技は近くの県に分散したほうが良いと申し上げ、同意してもらった。このままでは地方は衰退していく。さらに老人問題、いじめ問題などあるが、悪いところは順次改善していけばいいことで、世界の国々との比較では総合点で日本は最も恵まれた国の一つであると言える。ではこの豊かな水はどこから湧いてきたのか。言うまでもなく、先人のおかげである。

今年は大きな出来事が二つ起きた。一つは英国のEU離脱。英国は40年前（1975）にECから離脱の国民投票をやり2対1で否決された。

しかし今回の国民投票では半分を少し超える賛成票が投じられた。もう一つはアメリカで起こったトランプ現象。私もワシントン特派員時代に大統領選挙の取材を経験したが、その時は共和党の大勝利という結果だったので、当時の経験は今回、何の役にもたたなかった。後講釈だといってしまうとそれまでだが、これら二つの現象はこれまで人類が追求してきたグローバリゼーションに対するアンチテーゼだということ。地球が一つになるべくみんなで問題を共有しようと40年間努力を重ねる一方で弊害が出てきた。その弊害のほうが目につくようになったのでなんとか巻き返せねばというのが二つの現象に出ているといわれている。では、なぜ日本にはポピュリズム・大衆迎合の動きがないのか。構造改革は言葉だけで進んでいない。現内閣も第三の矢という毛利元就の言葉を引用したが、何も変わっていない。アメリカやヨーロッパで選挙戦の焦点となっている移民問題も、日本にはない。移民政策もないし、難民も片手で数えるほどのみ。世界の問題にまともに取り組んでいない。トランプはアメリカファーストと言うが、日本は今日までずっと「日本ファースト」だった。

だから、日本には人口減少という難問を抱えている。子供の誕生減少が大きな理由だが、これが社会・経済の閉塞感につながっている。団塊の世代は年間270万人の赤ちゃんが誕生したが、一昨年は97万人の誕生数であった。年間100万人を切っているのである。人口統計によれば出生率の低下により西暦3300年の日本人口はわずか二人となり3387年にはゼロとなる。ではどうすべきか。移民を受け入れ経済成長をもう一回取り戻すか、あるいは日本の限界を知って質の高い日本社会を維持するか、私は後者がいいと思う。戦前の富国強兵に対し、戦後は富国弱兵を国是としてきたが、いまや成熟社会を迎えて、私は従来の価値観だった経済成長主義を捨てて、質の高い日本を目指すべきと考える。

（文責 関根 紳仁）

オリンパス技術歴史館「瑞古洞」

街路樹が真っ黄色に染まり、落ち葉の吹き溜まりをかさかさとしめながら、14:20研修見学会参加者31人は八王子にあるオリンパス(株)技術開発センターに集合した。清潔感あふれる真っ白の建物、白を基調とした広々としたロビー。さすがオリンパスである。

1919年に顕微鏡の量産化を目指して創立したオリンパスは当初の顕微鏡からカメラ、内視鏡へと事業分野を拡大し、現在では光学技術と最先端のデジタル技術を融合したライフサイエンス、映像、医療の3事業を柱として社会に貢献している。

今回の研修見学会はオリンパス技術開発センターの一角にある「瑞古洞」を案内してもらうことである。「瑞古洞」はオリンパスが創業後初めて世に出した顕微鏡、カメラ、内視鏡の1号機から最新の顕微鏡、カメラ、内視鏡に至る代表的な製品が展示されていて、製品を通じて、技

術の変遷や発展が手に取るように分かるコンパクトだが、見ごたえのある歴史館であった。

まず、全員、技術開発センターの会議室に案内され、歴史館「瑞古洞」の副館長から丁寧な歓迎の挨拶とオリンパスの創業当初からの社歴と現在の事業の説明を受けた。その後、4班に分かれて、「瑞古洞」の中に案内された。館内は大きく3事業に分かれていて、「ライフサイエンス・産業事業」では顕微鏡を、「映像事業」ではカメラを、「医療事業」では内視鏡を中心に詳細な説明を受けた。どのコーナーでも身近な製品であり、興味津々。各班とも質問が飛び交ったようだ。体験コーナーもあり、我々の班では内視鏡による内腹手術の機械操作を体験したが、ベテランの外科医のように物をつかむことすら簡単には出来なかった。お聞きすると、技術開発センター内には外科医専門の研修センター

があり、内視鏡による手術の訓練が行われているとのこと。それも専門医師の予約でいつも満員とのこと。今後の外科的治療は患者の負担を軽減するデジタル遠隔医療が主流となるに違いはないようだ。

参加者には写友会の会員も多くいて、映像事業の展示コーナーではオリンパスの案内者そのけでお互いのカメラ専門知識を交換していた。全班が会議室に戻り、見学後恒例の質問タイムを経て、菅野会長のお礼の言葉で研修見学会は無事終了した。

「温故知新」、久しぶりに古い科学製品を見た、そして未来もまた見えた実りある楽しい研修見学会でした。オリンパスの皆様、研修見学会参加者の皆様、ご協力ありがとうございました。

(野村立夫、窪田隆)

第26回合同展を開催

12月21日～25日、文京シビックセンター・ギャラリーにて「第26回合同展(写真・俳句・絵画)」が開催されました。年1回だった合同展が平成24年(第18回)から年2回になり、今年で5年目になります。(会場予約が取れず平成25年のみ1回)

今回は写真45点、写真・俳句コラボ12点、俳句8点、絵画30点合計95点の力作が並びました。来場者は年末で3連休もあったにも拘らず884名を数えました。初日には区民センターでの「監査基礎講座」に出席された会員の方も多数来場していただきました。

シビックに所用で来られたついでと思われる来場者も多く、合同展も監査懇話会の「露出度」を高める一端を担っているものと自認しています。外人客も多くなってきたので、前回から作品の下カードに英訳をつけるという試みに挑戦しています。クリスマス・イヴにスイス人男

性と日本人女性のペアが来場、英訳していなかった「監査懇話会合同展開催にあたって」のパネルの説明を求められました。日本人女性がほとんど通訳してくれましたが、こちらも英訳を準備する必要があるかも知れません。

初日に画友会の関原先生、最終日に写友会の合地先生の講評が行われ、それぞれの会員以外の人も熱心に聞いている姿が見られました。

頭と手を使う活動は老化防止にも役立つと思いますので、写真・俳句・絵画に関心のある方は「行事予定」をご参照の上、是非一度それぞれの例会の見学にお出かけいただくようお誘いいた

します。技術的未熟さをあげて参加をためらう方もおられますが、誰でも最初は同じようなところからスタートするのだと思います。写真・俳句・絵画とも技能向上を目指し切磋琢磨する(それも大切ではありますが)と言うよりは、友人が増えることを大歓迎するサークルなのでお気軽に覗いてみてください。

(城戸崎 雅崇)





句遊会

十二月詠草

兼題：葱、柚子湯、当季雑詠

深堀の寄せ畝白き根深かな

清家静楓

白葱や地味の甘さに卵綴じ

大仲正敏

柚子湯てふ小さき贅沢する今宵

城戸崎雅崇

老いの狂気柚子どかどかと湯溢れしむ

宮川至剛

鼻先の柚子湯の柚子を指で突き

石原克己

柚子湯あび一皮むけよ老いの肌

中山知祐

つつがなき日々を瞼に冬至風呂

佐藤政白

柚子足して本音は言へず仕舞風呂

安井正浩

柚子の香を一人占めして柚子湯かな

生江沢五風

母と見る江古田の森の冬の影

眞田宗興

丹頂の翔び立つ胸を開きけり

六川里風

冬ざれの隅田を下る硝子船

森 邦彦

画友会



「無花果」

林 英男

水彩 F6号

事務局通信



◆行事報告

出席者

第137回理事会

12月15日(木)10:00～12:00 文京区民センター 13
会報委員会
編集

12月6日(火)15:00～17:00 事務局 6
校正

12月20日(火)10:00～12:00 事務局 5
広報委員会

12月7日(水)14:00～17:00 事務局 8

◇一般部会

第530回研修見学会

12月5日(月)14:30～16:30 32
オリンパス技術歴史館「瑞古洞」

第732回講演会

12月13日(火)14:00～16:00 日比谷図書文化館 98
講師 作家 富澤 秀機氏

演題 日米を結んだ第2のシルクロード

懇親会

12月13日(火)16:30～18:30 ライブラリーダイニング日比谷 52

◇監査部会

第292回監査セミナー

12月9日(金)14:30～17:00 日比谷図書文化館 63
(他体験3名)

講師 九州大学名誉教授 弁護士 西山 芳喜氏

テーマ 監査役の役割とは何か

ー日本型企業システムの要としてー

第200回監査実務研究会

12月15日(木)14:00～17:00 文京シビックセンター 21
問題提起者 (株)ニチリョク 常勤監査役 宮崎 芳光氏

テーマ 監査役会自前の法律顧問

第52回スタディグループ分科会

12月8日(木)14:30～17:00 文京区民センター 23
発表者 王子ネピア(株) 常勤監査役 野口 明雄氏

三菱プレジジョン(株) 常勤監査役 廣瀬 晴三氏

住友商事フィナンシャルマネジメント(株) 常勤監査役
小西 公明氏

コーディネーター 王子ネピア(株) 常勤監査役 野口 明雄氏

テーマ 監査役会等の運営要領

第52回独立委員会セミナー

12月7日(水)14:30～17:00 文京シビックセンター 32
講師 (株)システムインテグレータ 監査役 眞田 宗興氏

テーマ 三菱自動車燃費不正事件

ー監査役はどう立ち向かえばよいのだろうか

第6回監査基礎講座

12月21日(水)14:00～17:00 文京区民センター 22
講師 キューブシステム(株) 常勤監査役 小泉 滋氏

テーマ 期中監査の実行

第4回会計基礎講座

12月12日(月)14:00～17:00 文京区民センター 22
講師 ライト工業(株) 常勤監査役 木下 博之氏

テーマ 会計の実務の基礎

特別監査セミナー

12月20日(火)14:30～17:00 スカイホール 61
(他体験4名、特別8名)

講師 金融庁総務企画局審議官(検査局担当) 兼
公認会計士・監査審査会事務局長 天谷 知子氏

テーマ 公認会計士・監査審査会の最近の活動状況

企業集団内部統制監査委員会

12月1日(木)14:00～17:00 事務局 7

監査役職務確認書委員会

12月16日(金)9:30～12:00 事務局 5

取締役職務執行確認書委員会

12月9日(金)10:00～12:00 事務局 6

監査等委員会検討会委員会

12月14日(水)13:30～17:00 事務局 9

◇生涯学習部会

写友会 撮影会

12月12日(月)16:00～ よみうりランド 15

画友会 例会

12月5日(月)13:30～16:30 シビック・アトリエ 12

句遊会 例会

12月7日(水)14:00～16:00 菱友会会議室 10

楽友会 例会

12月14日(水)13:00～17:00 福祉センター江戸川橋 16

囲碁会 例会

12月16日(金)12:30～17:00 東京六甲クラブ 5

棋友会 例会

12月20日(火)13:00～17:00 東京六甲クラブ 10

◇同好会

声友会

12月15日(木)13:00～16:00 (銀座)505 13

楽器演奏同好会

12月17日(土)13:30～17:00 横浜練習会場 5

◆会員・会友異動

(新入会員)

○後藤 弘之 (株)プレントリー 常勤監査役

紹介: 吉田郁夫氏、山田貞一氏

(交替会員)

○並木 雅史 (株)ダイヤモンドテレコム 常任監査役

前任: 増田富夫氏

会 員	会 友	計
179	144	323

H28. 12月末現在

編集後記

★西山芳喜先生の監査セミナーは、江戸時代の武家や大店の伝統にまで遡って日本的な監査役のあり方を熱く語られ、心に響くようなお話だった★富沢秀機先生のご講演は多岐にわたりそれぞれが印象深かったが、生糸輸出が明治以降の国づくりの基盤だったことを再認識。その国を一挙に破壊する道へと進んだ経緯を、堀田江理氏の近著『1941決意なき開戦』で振り返る。当時も、そして今でも日本には「インテリジェンス(知性・諜報)」が欠けていること、そしてテレサ・テンの歌詞ではないが「時の流れに身を任せ」てしまう傾向が強いことを痛感★年末の恒例になった感のある『第26回合同展』には多くの方にご来場いただき心よりお礼申し上げます。

(城戸崎 雅崇)